

富士吉田市立病院の基本理念

地域の皆さんの健康と暮らしを支える為に、思いやりのある質の高い医療を提供します。

富士吉田市立病院運営方針

1. 皆さんの尊厳及び権利を尊重し、患者中心の医療を提供します。
2. 地域の基幹病院として、高度医療、災害医療、救急医療の充実を図ります。
3. 地域の医療機関、福祉・介護施設、行政機関と連携し、地域包括医療に貢献します。
4. やりがいと誇りを持った人材を育成し、チーム医療を推進します。
5. 社会性と経済性に配慮し、適切な経営に努めます。

富士吉田市立病院 患者さんの権利・義務憲章

医療とは患者さんと医療提供者とが互いの信頼関係に基づき、協働してつくり上げていくべきものであると考えています。
また、「患者さん中心の医療」の理念のもとに良質で安全な医療を提供し、信頼され安心して受診できる市立病院を目指しております。
これらの実現のために患者さんの基本的な権利を明確にし、これを尊重すると同時に、患者さんに守っていただきたい義務についても定め、ここに「患者の権利・義務憲章」として制定します。

『患者さんの権利』

医療は、患者さんと医療提供者との信頼関係の上に成り立つもので、その中心はあくまでも患者さんであり、従って、患者さんには次のような権利があります。

1. 平等かつ公平に医療を受ける権利
疾病の種類、社会的立場等に関わらず、すべての人には良質な医療を平等かつ公平に受ける権利があります。
2. 個人として尊重される権利
個人として価値観を尊重され、一人の人間として尊厳をもって接遇されるとともに、自らの意見を述べる権利があります。
3. 十分な説明と情報提供を受ける権利
病気、検査、治療、危険性、他の治療方法や見通しなどについて、理解しやすい言葉や方法で、十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
また、医療費や公的支援制度などについての説明を受ける権利もあります。
4. 自らの意思で選択・決定する権利
自らの受ける検査や治療方法などについて、説明を受けた上で、自分の意思で選び決定する権利があり、一方で、希望しない医療を拒否したり、医療機関を選択したりする権利があります。
そのために、カルテを含む診療情報の開示やセカンド・オピニオンを求めることができます。
5. 自分の情報を承諾なくして第三者に開示されない権利（プライバシー保護）
自身の身体や病気をはじめとするすべての個人情報及びプライバシーを守られる権利があります。

『患者さんの義務』

医療は、協働作業であり、患者さんの主体的な参加の上に成り立つものであるため、患者さんには次のような義務があります。
医師及び医療従事者の権利について医師及び医療従事者には、医療行為を行う上での裁量権があります。裁量権とは、医療が持つ本質的不確かさによりおこる事柄に対して、医師及び医療従事者の学識経験に基づき医療行為を行うことです。
また、医師及び医療従事者は、自らの良心や医療倫理に相反する事に対して、患者さんからの要求があっても拒否する権利があります。

1. 正確な情報を提供するとともに、疾病や医療を十分理解するよう努力する義務
医師をはじめとする医療提供者に、自らの心身あるいは生活について必要な情報をできるだけ正確に知らせるとともに、納得できるまで質問するなどして自らの疾病や医療について十分理解するよう努力する義務があります。
2. 医療に積極的に取り組む義務
検査や治療について、納得し合意した方針には意欲を持って取り組む義務があります。
3. 快適な医療環境づくりに協力する義務
すべての患者さんが快適な環境で医療が受けられるよう、病院内での規則と病院職員の指示を守る義務があります。
4. 医療費を支払う義務
適切な医療を維持していくため、医療費を支払う義務があります。

沿革及び事業の主な経緯

昭和23年 8月	・下吉田町立病院（40床）として開設
昭和26年 3月	・市制施行に伴い富士吉田市立病院と改称
昭和31年10月	・馬場 甫先生院長となる
昭和35年 5月	・腰塚 浩先生院長となる
昭和42年 6月	・富士吉田市緑ヶ丘に旧市立病院新築 ・医師住宅（新町）建設工事
昭和46年	・結核病棟を新築して（44床）とする ・コバルト治療装置の導入
昭和47年	・超音波手術用手洗装置など整備 ・小児科閉鎖
昭和48年	・人工腎臓装置（2台）整備
昭和50年	・人工腎臓装置（2台）整備
昭和52年	・県の補助金を受け市立病院併設救急医療センター及び伝染病棟、結核病棟の増改築を行い、医療機器（救急用）を整備 ・超音波診断装置（セクター式を導入）
昭和53年	・防災設備の改修工事を行う、スプリンクラーの設置 ・人工透析室の増築工事を行い、人工透析装置（8台）を設備し、計12台
昭和54年	・小児科を再開設 ・小児科入院患者の急増に伴い、結核病棟を廃止し、これを改修して小児科病棟を設置する。その結果病床数は次のとおりとなる。 一般169、結核21、伝染20 計210（変更前） 一般200、伝染20 計220（変更後） ・看護婦宿舎の増設工事を行い、既設18室（1室6畳）に14室（1室6畳）を増設、32室とする ・耳鼻咽喉科を開設 診療用のユニットを整備 ・浄化槽の改造工事を行い、二次処理装置を整備し、処理廃水の改善を図る ・自動化学分析装置を導入して検査の能率化と微量（血液）検査が行えるようにした
昭和55年	・脳神経外科を開設 ・全身用コンピューター断層診断装置をはじめ大型医療機器を導入して、脳卒中や頭部損傷などの救命救急が可能となる。これらの大型医療機器の導入にあたっては国（民生安定事業）県の補助金と富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合からの寄付を受けた ・ICU（集中治療室）を設置 ・手術室医療機器保管室（前室）、小児科の待合室、耳鼻咽喉科医師休憩室CT機械室など以上の増設 ・眼科を開設 ・検査、診察用機器を整備
昭和56年	・理学療法室及び小児科病床9床を増設 一般209床、伝染病棟20床 計229床
昭和56年	・脳神経外科病棟の増築（21床） 一般230床、伝染病棟20床 計250床 ・眼科の手術用機器、超音波白内障手術装置やレーザー光凝装置などの導入によって画期的な高度の眼

			科手術を可能にした。
昭和 5 7 年			・院内の清潔保持のため病院西側にエレベーター設置（業務専用として運行） ・産婦人科病棟を改修、（授乳室、超音波室、ナースステーション、休憩室）4 床を増床、脳神経外科病床を 4 床減少 ・電子走査形超音波診断装置(50A)3 台購入、内科用、産婦人科用、超音波室用として、配備 ・心臓病専門外来を週 1 日開設
昭和 5 8 年			・6 階内科病棟特 A 室を CCU 治療室に改造し 3 床とする。 ・循環器 X 線診断連続装置をはじめ大動脈内バルーンポンプ等、心臓病関連医療機器の導入、心臓病の救命救急医療に大きく前進
昭和 5 9 年			・小児科病棟を増築し肺炎等の即対応制の確立を図る
昭和 6 0 年			・倉庫（約 65 坪）2 階建鉄骨造を新築、カルテ・フィルム（過年度）を整理、院内の環境整備と医療機器の保管など事務効率の向上を図る ・診断用 X 線装置の導入により、多軌道断層撮影が時間の制約なしで撮影でき、手術時の対応が容易に出来るようになり、救急医療に大きく前進 ・重症患者の増加により医療ガスの配管設備を各病棟全部に設備し緊急治療の向上を図る ・皮膚科・泌尿器科を開設
昭和 6 2 年			・病院運営効率化と患者サービスの向上のため、コンピュータの導入を図り、63 年度当初よりスタートを目指し、基礎づくりを図った
昭和 6 3 年			・コンピュータの導入を図り、5 月より入院業務、6 月より外来業務をスタート、医事業務のスピード化と薬表示器の設置、待ち時間短縮を図った ・窓口相談コーナーを設置 ・市立病院問題審議会設置
		5 月	
平成 2 年	3 月		・同審議会より移転新築を必要とする旨の答甲
	4 月		・腰塚 浩先生、名誉院長となり浅海秀一郎先生副院長昇任
平成 4 年	4 月		・新病院建設事務局発足
平成 7 年	4 月		・高木 淳彦先生院長として就任
平成 8 年	1 1 月		・新市立病院建設計画検討委員会設置
平成 9 年	3 月		・第 5 回新市立病院建設計画検討委員会 ・市長へ「より望ましい病院のあり方」の提言
平成 1 0 年	4 月		・建設地を城山東地区土地区画整備事業地内に決定する旨表明 ・基本設計着手
	8 月		・実施設計着手
	1 2 月		・新市立病院新築（建築主体）工事一般競争入札・同日工事請負契約締結 ・起工式
平成 1 1 年	2 月		・新市立病院新築（衛生設備・電気設備・空調設備）工事一般競争入札・同日工事請負契約締結
平成 1 2 年	2 月		・上棟式
平成 1 2 年	9 月		・本体工事竣工
平成 1 3 年	4 月		・落成式
	5 月		・新築移転 富士吉田市上吉田 1542 番地外 ・病床数 304 床（一般病床 250 床・療養病床 50 床・感染症病床 4 床）

		・ 標榜科目 内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、精神科、神経内科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、眼科、循環器科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科（計 17 科） ・ オーダリング・システム運用開始
平成 14 年	4 月	・ 富士吉田市城山東地区画整理事業の換地処分の完了に伴い地番変更（旧 上吉田字三枚島 1542 番外）（新 上吉田 6530 番地）
	9 月	・ 地域医療連携室検討委員会設置
平成 15 年	2 月	・ 病診連携のため医師会と協定を結ぶ
	8 月	・ (財) 日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を受ける
平成 16 年	4 月	・ 経営企画課 設置
	7 月	・ (財) 日本医療機能評価機構による病院機能評価の再審査を受ける
平成 17 年	4 月	・ 江口 英雄先生 院長就任 ・ 標榜科目に呼吸器外科を追加（計 18 科）
平成 18 年		・ 地域医療連携室 設置 ・ 透析室が血液浄化センターに名称変更
	5 月	・ 高田 健祐副院長 退職
	6 月	・ 高橋 正一郎統括診療部長、副院長に昇任
	11 月	・ 大規模災害に備え、初のトリアージ実地訓練を実施
平成 19 年	1 月	・ 地域がん診療連携拠点病院に指定
	4 月	・ 医療安全管理室 設置 ・ 医療情報システム導入
	7 月	・ 新潟県中越沖地震発生、市立病院 DMAT 現地へ出動
平成 20 年	3 月	・ 富士吉田市立富士北麓総合医療センターに小児初期救急センターの設置が決定される
	4 月	・ 医療法等改正により、「循環器科」が「循環器内科」に名称変更
	9 月	・ 榎本 温先生 院長就任
平成 21 年	2 月	・ (財) 日本医療機能評価機構による病院機能評価 Ver. 5 の審査を受ける
	3 月	・ 64 列 CT 導入
	4 月	・ 標榜科目に形成外科、救急科を追加（計 20 科） ・ DPC(診断群別包括支払方式) 導入
	5 月	・ 看護基準 7 対 1 を取得
平成 22 年		
平成 23 年	3 月	・ 東日本大震災発災 市立病院 DMAT 派遣
	4 月	・ 標榜科目にリウマチ科を追加（計 21 科） ・ 北別館 増築 放射線治療機器『リニアック』導入
平成 24 年		
平成 25 年	3 月	・ 防災対応のため病院ヘリポート改修 ・ 標榜科目に歯科口腔外科を追加（計 22 科）
	6 月	・ 3.0 テスラ MRI を導入
平成 26 年	7 月	・ 病院機能評価 3rdG : Ver1.0 取得
	9 月	・ 御嶽山噴火 市立病院 DMAT 派遣 ・ 電子カルテシステム運用開始

平成 27 年		
平成 28 年	9 月	・急性期病床 250 床のうち 5 階西病棟 50 床を地域包括ケア病床に転換
平成 29 年	2 月	・松田 政徳先生 院長就任
平成 30 年	3 月	・石川 仁診療部長、副院長に昇任
		・天野 力郎診療部長、副院長に昇任
	4 月	・院内売店をデイリーヤマザキとしてリニューアルオープン
令和 元年	6 月	・病院機能評価 3rdG : Ver2.0 取得
	7 月	・慢性期病床の 3 階西病棟 50 床のうち 35 床を回復期リハ病床に転換
	10 月	・台風 19 号による千曲川氾濫 市立病院 DMAT 派遣
令和 2 年	3 月	・富士北麓・東部地域で初めて新型コロナウイルス感染症入院患者を受入れ
		・高橋 正一郎統括副院長 退職
	4 月	・本田 勇二診療統括部長、副院長に昇任
	6 月	・富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合からの寄付により手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入
	8 月	・山梨県の新型コロナウイルス感染症受入重点医療機関として指定される
令和 3 年	1 月	・西別館（保育所にじいろ）を新設
	3 月	・西別館にて医療従事者に対する新型コロナウイルスワクチンの優先接種を開始
		・診療科の細分化により標榜科目に、消化器内科、腎臓内科、内分泌内科、糖尿病内科、脳神経内科（神経内科を削除）、呼吸器内科、膠原病内科、消化器外科、乳腺外科、内分泌外科を追加（計 31 科）
令和 4 年	3 月	・旧保育室をリハビリテーションセンターに拡充
		・石川 仁副院長 退職
	6 月	・内閣府の支援事業を活用し、富士山噴火避難確保計画を策定
令和 5 年	6 月	・旧レストランを内視鏡センターに改修
	10 月	・中部ブロック 9 県の DMAT 実働訓練に連動した富士山噴火避難訓練を実施
令和 6 年	3 月	・能登半島地震 市立病院 DMAT 派遣
		・旧内視鏡室を健診センターに改修

病院概要

病院の名称	国民健康保険 富士吉田市立病院
所在地	富士吉田市上吉田東七丁目 11 番 1 号 電話 0555-22-4111（代表）
開設者	富士吉田市長
標榜科目	内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、内分泌内科、糖尿病内科、脳神経内科、呼吸器内科、膠原病内科、外科、消化器外科、乳腺外科、内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、精神科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、リウマチ科、救急科、歯科口腔外科（計 31 科）
病床数	310 床（一般病床 256 床・療養病床 50 床・感染症病床 4 床）
看護基準	急性期一般入院料 1（204 床） 7 対 1 看護
その他	救急処置室、手術室、集中治療室、血液浄化センター、院内分校、保育所、リハビリテーションセンター、ヘリポート 臨床検査科部門、放射線科部門、薬剤科部門、透析部門 ME 室、放射線治療科（リニアック）、外来化学療法室 地域支援センター（医療福祉相談、がん支援相談、地域医療連携、在宅医療、介護支援）
特殊設備	放射線治療装置（リニアック）、手術支援ロボット（ダヴィンチ）、64 列マルチスライス CT、MRI（1.5T、3.0T） 血管連続撮影装置、人工透析装置、超音波断層診断装置、結石破碎装置、臨床化学自動分析装置などの高度機器
特殊診療	脊椎外来、スポーツ外来、リンパ浮腫外来、緩和ケア外来、助産師外来、禁煙外来、疼痛外来（ペインクリニック） 体外衝撃波結石治療、頭痛専門外来、小児の特殊診療（腎臓外来、神経外来、心臓外来、内分泌外来）

I. 各種指定、認定等の状況

i. 指定、認定の状況

保険医療機関	生活保護指定病院
労災保険指定病院、労災保険二次健診等給付病院	結核予防法指定病院
災害拠点病院	原子爆弾被爆者一般疾病医療取扱病院（被爆者指定医療機関）
指定自立支援医療機関	身体障害者福祉法指定医
養育医療、育成医療各指定病院	小児慢性特定疾患治療研究事業
救急医療提供病院	特定疾患治療研究事業
母体保護法指定医	公害医療機関
精神保健指定病院	第二種感染症指定医療機関
エイズ拠点病院	難病医療協力病院
実習病院（市立看護専門学校等）	肝疾患に関する専門医療機関
地域がん診療病院	東京都肝臓専門医療機関
山梨大学医学部附属病院地域医療連携室	東京医科歯科大学病院医療系連携施設医療機関
学校法人昭和大学学外臨床研修医療機関	在宅療養後方支援病院
病院機能評価 3rdG : Ver2.0	

ii. 学会等研修施設

NCD（National Clinical Database）施設	日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC）
薬学生長期実務実習受入施設	日本眼科学会専門医制度研修施設
NST 認定稼働施設	日本心血管インターベンション治療学会専門医研修関連施設
日本糖尿病学会教育関連施設	日本循環器学会専門医研修関連施設
日本消化器病学会認定施設	日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設
日本腎臓学会認定教育施設	日本透析医学会専門医認定施設
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設	日本麻酔科学会専門研修連携施設
日本外科学会専門医制度修練施設（指定施設）	日本麻酔科学会認定施設
日本がん治療認定医認定研修施設	日本口腔外科学会認定准研修施設
日本乳癌学会関連施設	日本神経学会専門医制度教育関連施設
指導連携施設	日本内分泌学会認定教育施設
日本大腸肛門病学会認定施設	
日本リウマチ学会教育施設	
日本整形外科学会専門医研修施設	
椎間板酵素注入療法実施可能施設	
専門研修連携施設	
新生児認定補完施設	
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	

II. 施設概要

i. 本館

敷地面積	: 20,237.21 m ² (北別館を含む。)
建築面積	: 6,520.00 m ²
延床面積	: 22,041.04 m ²
病棟部門	: 8,392.58 m ²
外来部門	: 4,209.94 m ²
中央診療部門	: 3,472.59 m ²
管理部門	: 5,965.93 m ²
構造	: 鉄筋コンクリート造 (免震構造) / 地下1階、地上5階

ii. 北別館

建築面積	: 649.92 m ²
延床面積	: 1,136.66 m ²
構造	: 鉄筋コンクリート造 (免震構造) / 地下1階、地上1階

iii. 西別館

敷地面積	: 1863.52 m ²
建築面積	: 435.27 m ²
延床面積	: 861.72 m ²
構造	: 鉄骨造 / 地上2階

III. 設備概要

i. 電気設備

受変電設備	: 3φ3W、6,600V、50HZ、2回線引込、変圧器容量4,300KVA (モールド変圧器)
非常用発電機設備	: 3φ3W、6,600V、50HZ、625KVA、ガスタービン機関、空冷式、蓄電池起動×1台
直流電源設備	: 非常照明用、受電設備制御用、鉛蓄電池 (MSE500AH) 108V 54セル
無停電電源装置	: 75KVA (UPS)、医療用、鉛蓄電池 (MSE200AH) 200V 180セル
電話交換設備	: 電子交換機 (内線、400回線、局線、30回線)
弱電設備	: 拡声設備、テレビ共聴設備、インターホン設備、ナースコール設備、表示設備、計測震度

ii. 衛生設備

給水設備	: 受水槽 120 m ³ ×1基、井水槽 130 m ³ ×1基 加圧給水ポンプ方式
湯設備	: 蒸気利用による中央給湯方式 8 m ³ ×2基

iii. 空調設備

熱源設備	: 吸収式冷温水発生器 1055KW (冷凍能力)×2基、貫流式蒸気ボイラー2,000Kg/H×2基、チラー冷凍機 315KW (冷凍能力)
空調機設備	: 単一ダクト方式、一次処理空気 (AHU) +FCU 又は WHP、フローヒーティング蒸気発生器 2050Kg/H

iv. 昇降機設備

エレベータ	: 乗用15名乗り×4台、9名乗り×1台、給食用×1台、荷物用×1台、専用×2台、ダムウェイター×4台
エスカレータ	: 1台
エアシューター	: 1式 (ステーション数×17)

職員状況Ⅰ．職員の現状　い．損益勘定支弁職員

職 種		令和４年４月１日時点		令和５年４月１日時点	
		職員数	内会計年度 任用職員	職員数	内会計年度 任用職員
医師職	院長	1		1	
	副院長	2		2	
	診療部長	2		2	
	医科部長	1 0		1 3	
	医長	1 4		1 1	
	医師	2 3		2 2	
	計	5 2		5 1	
看護職	看護師	2 3 5	2 6	2 4 5	3 0
	助産師	1 6	4	1 7	4
	保健師	1 0		9	
	准看護師	2	2	2	2
	看護助手	1 6	1 6	1 6	1 6
	計	2 7 9	4 8	2 8 9	5 2
医療技術職	薬剤師	1 3	1	1 3	1
	理学療法士	1 5		1 5	
	作業療法士	1 1		1 2	
	放射線技師	1 5		1 5	1
	臨床検査技師	2 1	3	2 1	3
	視能訓練士	4	1	4	1
	臨床工学士	8	1	7	
	言語聴覚士	3		3	
	栄養士	4	1	4	1
	歯科衛生士	3	2	3	2
	計	9 7	9	9 7	9
事務職	事務長	1		1	
	事務次長	1		1	
	課長	2		2	
	課長補佐	6		6	
	主幹	5		7	
	主査	7		7	
	主任	7		7	
	主事、主事補	6		6	
	その他	1 8	1 8	1 4	1 4
	計	5 3	1 8	5 1	1 4
合計		4 8 1	7 5	4 8 8	7 5

Ⅱ．職員平均年齢　い．損益勘定支弁職員

職種	医師	看護師	医療技術	事務職
平均年齢	4 2 . 1 4	3 6 . 7 1	3 7 . 8 6	3 8 . 0 0

患者統計

Ⅰ．診療科別入院患者数

区分	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科	18,338	50	22,060	61	24,467	67
人工透析	1	0	1	0	0	0
外科	7,123	20	7,076	20	6,450	18
心臓血管外科	527	1	421	1	974	3
小児科	1,441	4	1,489	4	1,055	3
脳神経外科	5,575	15	5,203	14	4,392	12
整形外科	17,816	49	17,442	48	20,869	57
皮膚科	0	0	0	0	0	0
循環器内科	7,065	19	6,329	17	6,808	19
泌尿器科	3,634	10	3,156	9	3,454	9
産婦人科	5,329	15	4,109	11	4,461	12
眼科	4,062	11	3,032	8	3,124	8
耳鼻咽喉科	656	2	643	2	1,150	3
精神科	0	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0
形成外科	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	98	0	137	0	176	0
合計	71,665	196	71,098	195	77,380	211
前年度対比	78.8%		99.2%		108.8%	

Ⅱ．診療科別外来患者数

区分	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科	23,051	95	27,265	112	28,276	116
人工透析	11,820	49	11,204	46	10,242	42
外科	11,850	49	10,710	44	10,602	44
心臓血管外科	2,821	12	2,720	11	2,494	10
小児科	6,193	25	5,584	23	6,236	26
脳神経外科	4,415	18	4,204	17	4,580	19
整形外科	17,958	74	18,301	75	19,884	82
皮膚科	7,491	31	8,424	35	7,788	32
循環器内科	10,797	45	9,991	41	9,950	41
泌尿器科	13,254	55	13,123	54	11,466	47
産婦人科	8,300	34	7,398	30	7,261	30
眼科	17,427	72	15,194	63	14,605	60
耳鼻咽喉科	7,521	31	8,640	36	7,874	32
精神科	3,067	13	3,008	12	2,744	11
放射線科	3,474	14	2,809	12	2,422	10
麻酔科	135	1	159	1	146	1
形成外科	395	2	394	2	462	2
歯科口腔外科	3,047	12	4,377	18	3,747	15
合計	153,016	632	153,505	632	150,779	620
前年度対比	95.7%		100.3%		98.2%	

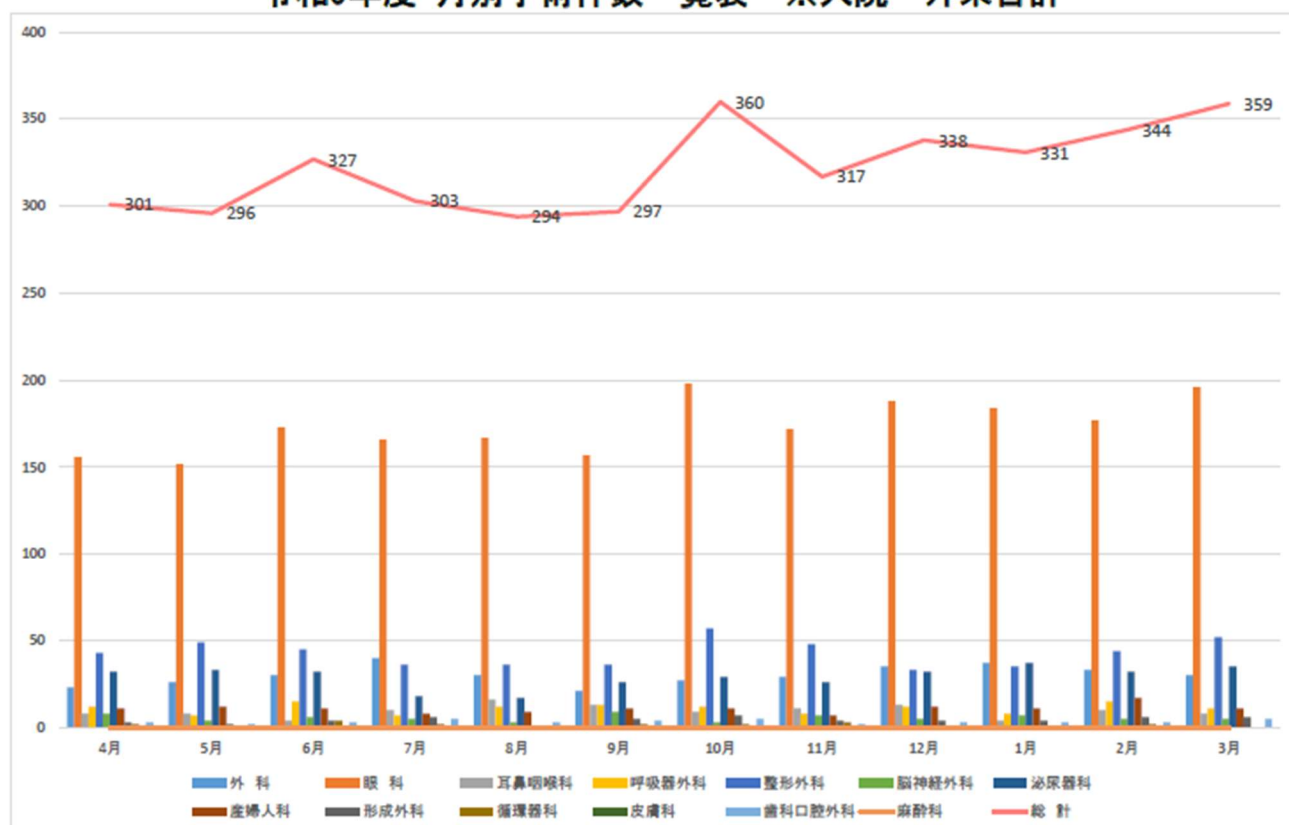
Ⅲ. 地区別入院患者数

区分	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
富士吉田市	37,878	52.85%	37,352	52.54%	41,256	53.32%
忍 野 村	6,421	8.96%	6,012	8.46%	5,678	7.34%
山中湖村	3,556	4.96%	4,163	5.86%	4,253	5.50%
富士河口湖町	10,160	14.18%	10,210	14.36%	10,965	14.17%
西 桂 町	3,171	4.42%	3,021	4.25%	2,591	3.35%
鳴 沢 村	1,593	2.22%	1,108	1.56%	1,653	2.14%
都 留 市	4,352	6.07%	4,883	6.87%	5,557	7.18%
大 月 市	816	1.14%	917	1.29%	1,120	1.45%
道志村	966	1.35%	626	0.88%	952	1.23%
その他県内	1,056	1.47%	1,048	1.47%	1,342	1.73%
県外他	1,696	2.37%	1,758	2.47%	2,013	2.60%
合 計	71,665	100%	71,098	100%	77,380	100%

Ⅳ. 地区別外来患者数

区分	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
富士吉田市	79,500	51.96%	79,690	51.91%	78,176	51.85%
忍 野 村	13,932	9.10%	13,731	8.94%	12,728	8.44%
山中湖村	8,259	5.40%	8,075	5.26%	7,979	5.29%
富士河口湖町	21,665	14.16%	21,329	13.89%	21,542	14.29%
西 桂 町	5,649	3.69%	5,823	3.79%	5,758	3.82%
鳴 沢 村	2,523	1.65%	2,495	1.63%	2,491	1.65%
都 留 市	14,000	9.15%	14,596	9.51%	14,419	9.56%
大 月 市	2,324	1.52%	2,384	1.55%	2,300	1.53%
道 志 村	1,742	1.14%	1,488	0.97%	1,459	0.97%
その他県内	1,334	0.87%	1,408	0.92%	1,338	0.89%
県外他	2,088	1.36%	2,486	1.62%	2,589	1.72%
合 計	153,016	100%	153,505	100%	150,779	100%

令和5年度 月別手術件数一覧表 ※入院・外来合計



手術件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
外 科	23	26	30	40	30	21	27	29	35	37	33	30	361
眼 科	156	152	173	166	167	157	198	172	188	184	177	196	2,086
耳鼻咽喉科	8	8	4	10	16	13	9	11	13	4	10	8	114
呼吸器外科	12	7	15	7	12	13	12	8	12	8	15	11	132
整形外科	43	49	45	36	36	36	57	48	33	35	44	52	514
脳神経外科	8	4	6	5	3	9	3	7	5	7	5	5	67
泌尿器科	32	33	32	18	17	26	29	26	32	37	32	35	349
産婦人科	11	12	11	8	9	11	11	7	12	11	17	11	131
形成外科	3	2	4	6	0	5	7	4	4	4	6	6	51
循環器科	2	1	4	2	1	2	2	3	1	1	2	0	21
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	3	2	3	5	3	4	5	2	3	3	3	5	41
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総 計	301	296	327	303	294	297	360	317	338	331	344	359	3,867

経営分析

項 目			令和3年度	令和4年度	令和5年度
施設	建築延面積（㎡）		23,358	23,358	23,358
	年度末病床数（床）		310	310	310
	一般病床		306	306	306
	感染症病床		4	4	4
	室料差額対象病床数（床）		64	64	64
	救急病床指定数（床）		16	16	16
病床利用状況	病床利用率（％）		63.3	63.3	63.3
	平均在院日数（日）		10.3	10.4	10.9
	一日平均患者数（人）	入 院	196	195	211
		外 来	632	632	620
	年延患者数（人）	入 院	71,665	71,098	77,380
		外 来	153,016	153,505	150,779
	外来入院患者比率		213.5	215.9	194.9
	患者一人一日当り	入 院	57,320	59,703	58,324
	収益（円）	外 来	14,487	15,067	14,739
損益計算書（千円）	総収益		8,821,607	8,989,850	8,437,141
	うち経常収益		8,688,362	8,852,947	8,296,510
	うち入院収益		4,107,839	4,244,763	4,536,359
	うち外来収益		2,216,670	2,312,807	2,222,327
	うち繰入金		719,687	645,789	751,807
	総費用		8,494,381	8,799,580	8,770,349
	うち職員給与費		4,386,423	4,466,477	4,339,011
	うち材料費		1,646,267	1,781,581	1,845,542
	うち減価償却費		556,175	560,441	541,627
	当年度純利益		327,226	190,270	-333,208
財務分析（％）	医業収益に対する割合	職員給与費	63.4	62.7	60.3
		材料費	23.8	25.2	25.6
		減価償却費	8.0	7.9	7.5
		企業債元利償還金	5.0	4.8	4.9
	経常収支比率		102.3	100.6	95.3
	医業収支比率		85.4	84.5	87.0
	他会計負担率		8.2	7.3	8.6
	有形固定資産減価償却率		65.2	67.1	67.0